

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：23901

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K21144

研究課題名（和文）刑事精神鑑定入院を受け入れる病棟看護管理者の看護管理上の困難

研究課題名（英文）Nursing Manager's Difficulties with Patients Admitted for Forensic Psychiatric Evaluation

研究代表者

兒玉 善明（KODAMA, Yoshiaki）

愛知県立大学・看護学部・助教

研究者番号：10909708

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 900,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は刑事精神鑑定入院を受け入れる病棟の看護管理者の看護管理上の困難を明らかにすることである。刑事精神鑑定入院を受け入れる病棟の看護管理者（看護師長相当職）の経験を有する者7名に対して、看護管理者としての能力や役割を発揮できずに「困ったこと」「負担感」等について1人1回のインタビューを実施した。分析の結果、【看護師の関わりを保障する根拠や環境の不足】や【看護管理者としての情緒的な動揺】などの5カテゴリ、15サブカテゴリが抽出された。看護役割の明確化や指針の整備だけでなく、看護師への教育プログラムの作成や、看護管理者に対する情緒的支援、病棟看護管理への支援の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

刑事精神鑑定は医療観察法の成立以前より精神科病院・病棟で鑑定留置の対象者を受け入れ実施されていたが、関わる看護師の体験や役割については研究がされていなかった。刑事精神鑑定の対象者を受け入れる病棟においては安全管理・危機管理が重要となり看護管理者が果たす役割も大きい。本研究においてはガイドラインの作成等による看護師の役割の明確化だけでなく、看護管理者個人へ焦点を当てた情緒的な支援だけでなく、受け入れている病棟に対して、病院全体での組織的な病棟看護管理に関する支援を行う必要性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to identify the nursing management difficulties of nurse managers on wards accepting admissions for criminal psychiatric evaluation. Seven experienced nurse managers (in a position equivalent to head nurse) on wards accepting admissions for criminal psychiatric evaluation were interviewed once per person about their 'difficulties' and 'sense of burden' in not being able to fulfil their competence and role as a nurse manager. As a result of the analysis, five categories and 15 sub-categories were extracted, including [lack of evidence and environment to guarantee the involvement of nurses] and [emotional turmoil as a nursing manager]. It was suggested that not only clarification of nursing roles and development of guidelines, but also the creation of educational programmes for nurses, emotional support for nursing managers and support for ward nursing management are needed.

研究分野：司法精神看護学

キーワード：刑事精神鑑定 看護管理者 看護管理上の困難

1. 研究開始当初の背景

刑事精神鑑定入院は心神の鑑定(刑事訴訟法 165 条)を鑑定留置(刑事訴訟法 167 条)によって身柄を精神科病院・病棟へ移して実施することである。刑事精神鑑定は、刑事責任能力鑑定、刑事訴訟能力鑑定、情状鑑定があるが、刑事精神鑑定の大半が刑事責任能力の鑑定である(五十嵐, 2017)。刑事責任能力鑑定は精神科的治療を行うことが目的ではなく(日本司法精神医学会 刑事精神鑑定倫理ガイドライン, 2012)、責任能力の鑑定という過去に焦点化された行為がなされることで、看護師は通常の精神科看護での治療的とは異なる関わりが求められる。

刑事責任能力鑑定の件数については、司法統計における鑑定留置状の既済人員を参考にする。と医療観察法が施行された 2005 年では 213 件(司法統計.2006)、裁判員制度が導入された 2009 年では 390 件(司法統計.2010)、2020 年では 662 件(司法統計.2021)と年々増加している。すべての鑑定留置状が付された対象者が精神科病院・病棟での刑事責任能力鑑定入院に該当するわけではないものの、全体数が多くなるにつれて精神科病院・病棟で受け入れる件数や勤務する看護師が刑事責任能力鑑定の対象者と関わる機会が増加していると推測する。

一方で、刑事精神鑑定に関する国内の研究は 8 件(原著論文)であり、国内での刑事精神鑑定に関する看護研究はほとんど行われていない状況がある。国外の研究においては、CINAHL にて、「criminal psychology」、「nursing」で検索すると 20 件が該当するが、国により医療関連法規や刑事法の違いや、触法行為に対する捉え方が異なるために国外での研究成果をそのまま当てはめることは困難である。

刑事責任能力鑑定入院に関連している領域として、精神科看護領域および矯正看護領域が考えられる。看護の対象となる加害者に対しての看護師の役割とケアについて国内外の文献検討を行い、触法精神障害者を受け入れる病院や矯正施設等で勤務する精神科看護師には「看護」と「監護」という、相反する役割とケアが求められていることを明らかにした(兒玉, 山田, 戸田, 2020)。精神科看護領域および矯正看護領域における看護師の医療安全・危機管理に関する文献検討(兒玉, 2022)においては、「対象者の権利の保障」と「看護師の安全確保」が医療安全・危機管理との関係において国内外で十分に検討されていないことが明らかになった。医療安全や危機管理は看護師個人で取り組むだけではなく、組織的な活動が必要であり、そのためには看護管理者による支援が必要不可欠な課題である。

以上から病棟看護管理者による刑事責任能力鑑定入院に関与する看護師への支援は重要な課題と考える。しかしながら、刑事責任能力鑑定入院という根拠法や関わる看護師の体験が日常的な精神科臨床とは異なる状況では、看護管理者の看護管理上の体験も異なり、今までに看護管理者が培った知識や経験では十分に対応しきれず、病棟看護管理者もまた看護管理上の困難を抱えていると推測する。

そこで今回、刑事責任能力鑑定入院対象者を受け入れた経験のある病棟看護管理者の看護管理上の困難を明らかにすることで看護管理者への支援を検討し、刑事責任能力鑑定に関わる看護師への支援へと結びつけたいと考える。

2. 研究の目的

刑事責任能力鑑定入院を受け入れる病棟の看護管理者の看護管理上の困難を明らかにすること。

3. 研究の方法

(1)研究デザイン

質的記述的研究デザイン

(2)用語の定義

病棟看護管理者

患者や対象者への直接的なケアではなく、看護管理を主な職務とする病棟看護師長に相当する職位にある看護師とする。

看護管理上の困難

病棟看護管理者が刑事責任能力鑑定入院を受け入れることで十分に能力や役割を発揮できない状況で感じる「困ったこと」「難しかったこと」「戸惑ったこと」「負担に感じたこと」とする。

(3)研究協力機関

中部地区の医療観察法病棟を有する 8 施設に研究協力を行い、4 施設から承諾が得られた。

(4)研究参加者

刑事精神鑑定入院を受け入れる病棟看護管理者(看護師長相当職)の経験を有する者 7 名

(5)調査期間

2022 年 7 月から 12 月

(6)インタビューガイドの作成

精神科看護および矯正看護領域での看護管理者の困難に関する国内外の文献検討を行った。文献検討は医中誌 web および CINAHL, CiNii, PubMed を用いて行った。得られた文献から精神科

訪問看護管理者・地域精神保健看護師を対象とした文献を除外し、和文献 6 件、英文献 2 件、国内書籍 1 冊、海外書籍 2 冊を分析対象とした。

さらに、国内の病棟看護管理者の困難を対象とするために、看護管理者の役割や能力として公益社団法人日本看護協会病院看護管理者のマネジメントラダー（2019）を踏まえ、インタビューガイドの原案を作成し、精神看護学および質的研究に精通する研究者とディスカッションを行い、インタビューガイドを洗練させた。

インタビューガイドは刑事精神鑑定入院を受け入れた経験について想起してもらい、精神保健福祉法や医療観察法による精神障害者の入院する病棟での出来事と比べてどのようなことに困ったり、戸惑ったことについて。対象者を受け入れたことによって生じる病棟スタッフの反応や、勤務や業務への配慮・調整において困ったこと、難しく感じたことについて。対象者を受け入れる上での危機管理・安全管理上で難しいと感じたこと、対策の策定で戸惑ったことについて。対象者を受け入れることで、病棟運営方針の策定や他部門との調整・交渉、連携等での難しいと感じたことについて。を会話形式で聞き取りを行った。

(7) データ収集方法

作成したインタビューガイドを用いて 1 人 1 回の半造化面接を実施した。

(8) データ分析方法

面接内容から逐語録を作成し、精読し、看護管理上の困難に関する内容をコードとして抽出した。類似したコードを分類し、カテゴリ化を行い、カテゴリの特性を検討・分析した。信用性、確証性確保のため精神看護学および質的研究の専門家である共同研究者からスーパーバイズを受けながら進めた。また、研究参加者 2 名によるメンバーチェックングを実施し、分析結果および解釈の妥当性を確保した。

(9) 倫理的配慮

本研究は愛知県立大学研究倫理審査委員会の承認（4 愛県大学情報第 26-8 号）及び研究協力施設の病院看護管理者の承諾を得て実施した。研究参加者に対して、研究の主旨、参加の自由意志、途中辞退の自由、個人情報保護等を、書面と口頭で説明し同意書を交わした。

4. 研究成果

(1) 研究参加者の概要

研究参加者は、女性 5 名、男性 2 名であり、平均年齢は 53.3 ± 3.4 歳（平均値 \pm 標準偏差、以下同様）であった。看護師経験年数は 29.9 ± 4.9 年、看護管理者年数は平均 7.0 ± 2.4 年、刑事精神鑑定入院を受け入れる病棟での看護管理者年数は 2.9 ± 1.1 年であった。また、インタビューの平均時間は 56.1 分であった。

(2) 刑事精神鑑定入院を受け入れる看護管理者の看護管理上の困難（表 1）

分析の結果、219 のコード、15 サブカテゴリが抽出され、最終的に【看護師の関わりを保証する根拠や環境の不足】、【刑事精神鑑定入院における看護の実務と教育の未確立】、【刑事精神鑑定入院における高度なセキュリティ要求と対象者の権利の保証との葛藤】、【看護管理者としての情緒的な動揺】、【病床管理・労務管理の調整難化】の 5 カテゴリが抽出された。

表 1 刑事精神鑑定入院を受け入れる病棟看護管理者の看護管理上の困難

カテゴリ	サブカテゴリ
看護師の関わりを保証する根拠や環境の不足	看護の主体性が担保されない戸惑い
	看護スタッフの対象者への関わり方の正当性を保証できない歯がゆさ
	病棟雰囲気悪化や看護スタッフの機能低下に対する情緒的対応の苦慮
	刑事責任能力鑑定入院の看護役割の理解の曖昧さ
	対象者の日常生活が保証できない精神科病棟の物的環境
刑事責任能力鑑定入院における看護の実務と教育の未確立	事例が少なく経験が蓄積されないことで生じる対応時の逡巡
	刑事責任能力鑑定入院に関する臨床教育の必要性を理解してもらい難しさ
刑事責任能力鑑定入院への高度なセキュリティ要求と対象者の権利の保障との葛藤	治療を行わない患者に関わる看護スタッフの安全確保への不安
	司法からの少ない情報で高いセキュリティを維持するプレッシャー
	高い緊張状態にある病棟や看護スタッフの負担を軽減できない懸念
	対象者の権利よりもお互いの安全を優先している可能性の懸念
看護管理者としての情緒的動揺	看護スタッフからの安直な要求と他部署からの対応の丸投げによる板挟み
	看護スタッフの情緒的变化の影響を受け精神的安定が維持できない戸惑い
	問題発生時は痛み傷ついたまま看護スタッフのサポートを続ける孤独
病床管理・労務管理の調整難化	対象者の存在による病床管理や勤務・業務管理に関する調整の煩雑化

(3) 考察

結果の 5 つのカテゴリのうち、【看護師の関わりを保証する根拠や環境の不足】、【刑事精神鑑定入院における看護の実務と教育の未確立】、【刑事精神鑑定入院における高度なセキュリティ要求と対象者の権利の保証との葛藤】は刑事精神鑑定入院に関するガイドラインが整備されていない状況や、刑事精神鑑定における看護の役割の不明確さに起因していた。

また、【看護管理者としての情緒的な動揺】と【病床管理・労務管理の調整難化】は日常的に実践している精神科病棟での看護管理の応用のみでは対応できなくなることと起因していると考えられた。

刑事精神鑑定入院においては、いまだ看護役割は不明確であり、刑事訴訟法下にある対象者を精神科病院で受け入れるために高度なセキュリティの維持が求められる。看護管理者は、刑事訴訟法下での看護スタッフの対象者への関わりの正当性を保証できず、実務や教育の不足、セキュリティを優先することによる対象者の権利を阻害する懸念などにつながっていると考えられる。さらにスタッフの情緒的变化の影響や看護管理者と同じ視点で現状を理解しサポートしてくれる相手の不在による孤独感などは看護管理者の情緒的動揺に繋がり、精神的安定を保つことが困難となっていた。

(4) 結論

看護管理者が根拠に基づいた看護スタッフへの支援や教育、病棟環境調整を行うためにも刑事責任能力鑑定入院のガイドラインの策定によって看護の役割が明確化されることが必要である。

刑事責任能力鑑定入院等の精神鑑定を目的とした入院で対象者に関わる看護師への教育プログラムの作成が必要である。

看護管理者は孤立しやすく、情緒的な支援が得られにくい現状があった。看護管理者個人へ精神的な支援が重要となる。

刑事責任能力鑑定入院を受け入れることで、単一病棟での病床管理や労務管理には限界がある。病院全体での病床調整や一時的な看護スタッフの派遣などの組織的な病棟看護管理に關する支援が必要である。

(5) 今後の展望

看護師・看護管理者が刑事責任能力鑑定入院のガイドラインが存在しない中でどのような看護実践・看護管理を行っているのかを明らかにするために実態調査を行う必要がある。さらに、刑事責任能力鑑定入院における看護実践・看護管理の中で、どのような支援を看護職者が求めているかを明らかにし、臨床レベルで実施可能な支援方法について検討することが求められる。

なお、本研究は現在学術誌への論文投稿準備をしている過程であり、今後より詳細な研究結果を公表していく。

<引用文献>

五十嵐禎人(2011), 医療観察法鑑定入院における対象者の診療に関する指針(鑑定入院診療ガイドライン), 医療観察法鑑定入院制度の適正化に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業(精神障害分野))平成22年度分担研究報告書, 鑑定業務の教育研修に関する研究. 162-181.

五十嵐禎人(2017). 日本精神神経学会司法精神医学委員会(編): 臨床医のための司法精神医学入門. 9-33, 新興医学出版社, 東京.

公益社団法人日本看護協会.(2019). 病院看護管理者のマネジメントラダー日本看護協会版.
https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/guideline/nm_managementladder.pdf

兒玉善明, 山田浩正, 戸田由美子.(2020). 司法精神医療における看護役割と看護ケア, インターナショナルNursing Care Research. 19(2). 123-132.

兒玉善明.(2022). 精神科看護領域および矯正看護領域における看護師の医療安全・危機管理に関する文献検討. 愛知県立大学看護学部紀要, 28, 13-23.

日本司法精神医学会, 日本司法精神医学会精神鑑定委員会(2014), 日本司法精神医学会刑事精神鑑定倫理ガイドライン. <http://jsfmh.org/oshirase/pdf/kanteirironGL.pdf>

裁判所, 司法統計, 総覧表, 令状事件の結果区分及び令状の種類別既済人員全裁判所及び全高等・地方・簡易裁判所(2005)<http://www.courts.go.jp/app/files/toukei/329/002329.pdf>

裁判所, 司法統計, 総覧表, 令状事件の結果区分及び令状の種類別既済人員全裁判所及び全高等・地方・簡易裁判所(2009)<http://www.courts.go.jp/app/files/toukei/772/004772.pdf>

裁判所, 司法統計, 総覧表, 令状事件の結果区分及び令状の種類別既済人員全裁判所及び全高等・地方・簡易裁判(2020). <https://www.courts.go.jp/app/files/toukei/163/012163.pdf>

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1．発表者名 児玉善明
2．発表標題 刑事精神鑑定入院を受け入れる病棟看護管理者の看護管理上の困難
3．学会等名 日本精神保健看護学会第34回学術集会
4．発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	加藤 宏公 (KATO Hirotada)		
研究協力者	山田 浩雅 (YAMADA Hiromasa)		
研究協力者	戸田 由美子 (TODA Yumiko)		

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------